

第7章 薬 事

1 薬局の処方せん受取枚数及び医薬分業率の推移 (表1、図1)

医薬分業は、近年、その推進のために様々な施策が実施されており、薬局の処方せん受取枚数は平成2年度の116万枚から、平成29年度のおよそ1,047万枚へ大幅に増加している。

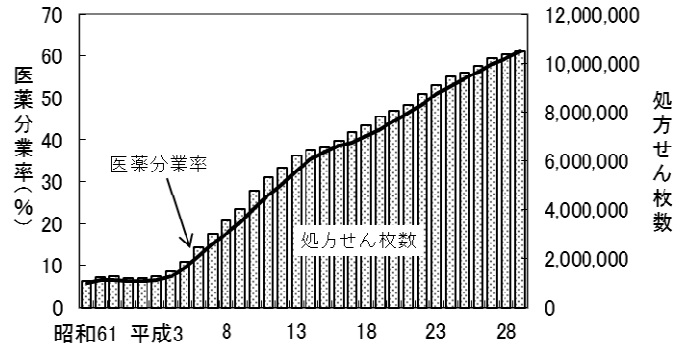
処方せんの受取枚数の増加により、医薬分業率(処方せん受取率)も平成2年度の6.1%から、平成29年度には61.1%に上昇しており、医薬分業は着実に進んでいる。

表1 薬局の処方せん受取枚数・
医薬分業率及び薬局数の推移
(各年度中・年度末現在)

年次	医薬分業率	処方せん枚数	薬局数
平成29	61.1	10,473,016	891
28	59.5	10,337,486	887
27	58.2	10,190,123	877
26	56.4	9,892,089	863
25	54.6	9,625,195	832
24	52.8	9,427,200	786
23	51.0	9,081,923	790
22	48.5	8,730,617	758
21	46.4	8,269,424	763
20	44.5	8,050,073	731
19	42.5	7,806,004	711
18	41.0	7,446,447	699
17	39.3	7,167,874	676
12	29.5	5,718,270	618
7	15.1	3,035,340	521
2	6.1	1,160,853	469

資料提供：(社)日本薬剤師

図1 薬局の処方せん受取枚数及び
医薬分業率の推移



会ホームページより抜粋

$$\text{医薬分業率} = \frac{\text{薬局の処方せん受取枚数}}{\text{医療診療(入院除く)日数} \times \text{医療診療投薬率} + \text{歯科診療日数} \times \text{歯科診療投薬率}} \times 100$$

2 献血状況の推移 (表2、図2)

献血者数は、昭和60年度をピークに減少し、近年は増減を繰り返しながらもほぼ横這いの状態となっている。平成29年度は85,245人で前年と比べ1,417人減少した。

平成29年度の献血量は、32,792.0リットルで前年と比べ667.0リットル減少した。

なお、平成11年度に献血可能年齢(血小板採血を除く)が、16～64歳から16～69歳に延長されている。

表2 献血者数及び献血量の推移
(年度中、昭和60以前は年中)

年次	献血者数	献血量
平成29	85,245	32,792.0
28	86,662	33,459.0
27	80,969	31,431.5
26	85,639	31,969.0
25	88,672	32,423.7
24	86,480	32,041.4
23	88,998	32,364.2
22	88,820	32,971.3
21	86,326	32,642.6
20	84,219	31,843.1
19	83,545	30,975.1
18	87,041	27,768.6
17	90,290	28,840.9
12	93,582	30,034.3
7	89,790	26,543.3
2	120,422	29,989.8
昭和60	130,644	26,128.8
55	91,156	18,231.2
50	53,520	10,704.0
45	28,170	5,634.0

図2 献血者数及び献血量の推移

